



## 平成27年度 決算概要

平成27年度の決算状況についてお知らせします。

### 1 総括事項

平成27年度につきましては、公立高島病院改革プランの最終年となることから、プランに掲げた目標達成に向け、限られた職員体制と診療体制の中で最善を尽くし、地域の方々に質の良い医療を提供するよう努めてまいりました。

予防医療につきましては、町健診センターと一体となり健診事業に積極的に取り組むと共に、各種予防接種事業につきましても、公立高島病院を中心として町内診療機関と連携し、適切に対応してまいりました。

更に、国が進める在宅医療の取り組みにつきましては、院内の体制整備を図ると共に、町内診療機関の先生方と勉強会を実施しながら、町内における在宅医療の方向性を検討してまいりました。

診療体制につきましては、4月より内科医1名が減となりましたが、10月に同医師を再度招聘することができ、平成26年度と同様の外来診療体制を維持することができました。

平成27年度の営業成績につきましては、限られた体制ではありましたが、入院収益が改善し、公立高島病院改革プランの計画数値を概ね達成することができました。

### 2 収支の状況（消費税除き）

入院収益は前年度を上回りましたが、外来収益は前年度を下回り、総収益で対前年比98,799千円の増収となりました。また、経常収益は対前年比99,561千円の増収となりました。

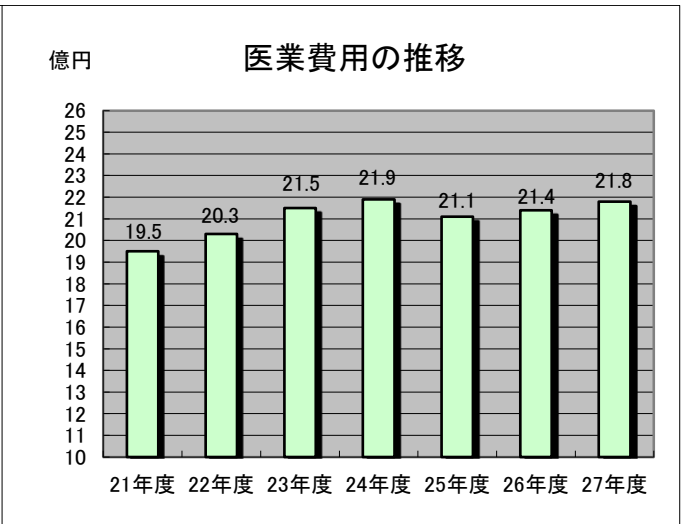
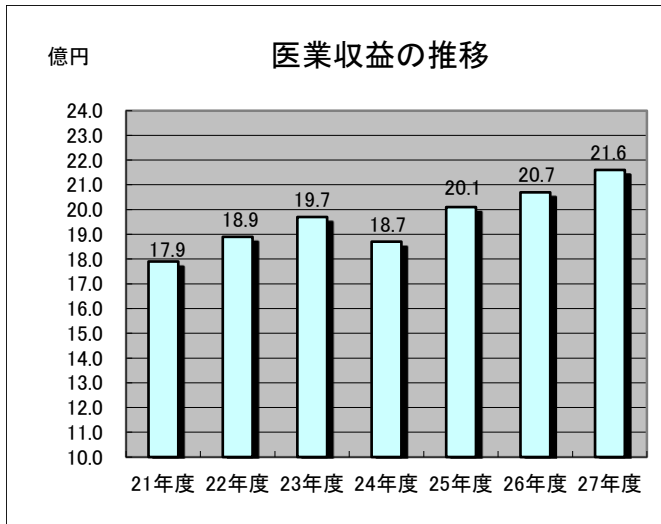
一方費用では、経費の削減に努め、総費用で対前年比31,905千円の減となりました。

総収支では前年度より130,704千円改善し、168,693千円の純利益を計上することができました。また、経常収支では対前年比63,357千円改善し、97,531千円の経常利益を計上することができました。

(単位:千円)

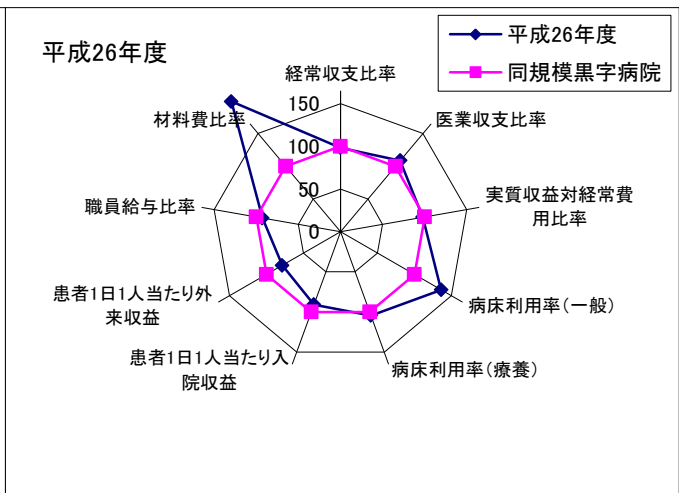
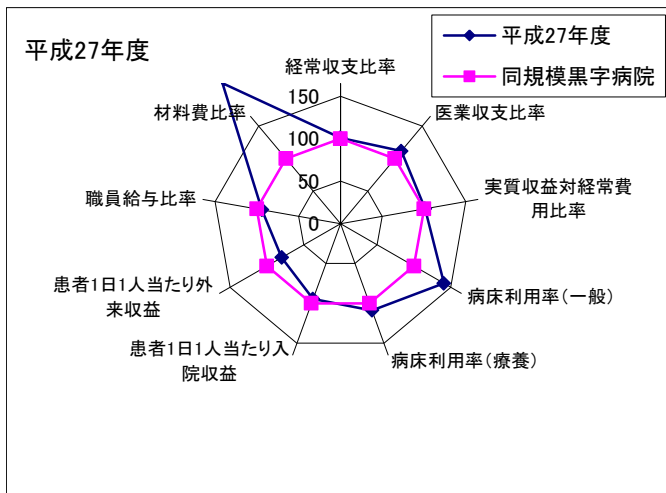
項目		27年度	26年度	前年比
医業収益	入院収益	1,301,392	1,197,979	108.6%
	外来収益	535,984	548,064	97.8%
	その他	318,222	319,880	99.5%
医業外収益	負担金	129,985	135,420	96.0%
	その他	125,273	109,952	113.9%
特別利益	特別利益	78,964	79,726	99.0%
総収益		2,489,820	2,391,021	104.1%
医業費用	給与費	1,240,962	1,204,865	103.0%
	材料費	175,197	181,140	96.7%
	経費	601,210	603,081	99.7%
	減価償却費	155,594	147,149	105.7%
	資産減耗費	802	642	124.9%
	研究研修費	3,830	4,133	92.7%
医業外費用	医業外費用	135,730	136,111	99.7%
特別損失	特別損失	7,801	75,910	10.3%
総費用		2,321,126	2,353,031	98.6%
総収支		168,694	37,990	444.0%





### 3 経営指標等

#### 主要指標の同規模黒字病院との比較



※同規模黒字病院経営指標(平成26年度実績)の平均値を100とした場合の当院の平成26年度・27年度それぞれの実績との経営指標数値の割合を示したものである。

※当院及び黒字病院の経営指標数値が類似黒字病院の平均値を上回っている場合(職員給与比率及び材料費比率については下回っている場合)に類似病院の線の外側に表示される。

(単位: %、円)

項目	平成27年度	平成26年度	増減	改善方向	類似黒字病院
経常収支比率	104.2	101.5	2.7	↑	103.2
医業収支比率	99.0	96.5	2.5	↑	88.8
実質収益対経常費用比率	88.0	85.0	3.0	↑	87.0
病床利用率(一般)	96.3	93.0	3.3	↑	68.4
病床利用率(療養)	88.3	84.6	3.7	↑	81.1
患者1日1人当たり入院収益	29,094	27,944	1,150	↑	30,761
患者1日1人当たり外来収益	7,661	7,563	98.0	↑	9,598
職員給与比率	57.6	58.3	△ 0.7	↑	54.1
材料費比率	8.1	8.8	△ 0.7	↑	17.5

※改善方向については平成26年度と比較して↑が改善、↓が悪化したことを示している。

### 【収支構造】

○経常収支比率  $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$

病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するためには、適正な負担区分を前提として、この比率が100%以上あることが望ましい。

○医業収支比率  $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$

医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標。経常収支比率と同様、この比率が100%以上あることが望ましい。

○実質収益対経常収支比率  $(\text{経常収益} - \text{他会計繰入金}) \div \text{経常費用} \times 100$

経常費用が経常収益から他会計繰入金を引いた実質収益によってどの程度賄われているかを示す指標。この比率が100%以上あることが望ましい。

### 【収入構造】

○病床利用率  $\text{年延入院患者数} \div \text{年延病床数} \times 100$

病院の施設が有効に活用されているかどうか判断する指標。病床利用率が恒常的に低い場合には、病床規模が適切か否か検討する必要があります。

○患者1人1日当たり入院収益  $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$

○患者1人1日当たり外来収益  $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$

病院の収入分析をするうえで最も基本的な指標。料金収入を増加させるためには、患者数という量的な要素と1人当たりの収入という質的な要素が重要となります。

### 【費用構造】

○職員給与比率(職員給与対医業収益比率)  $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$

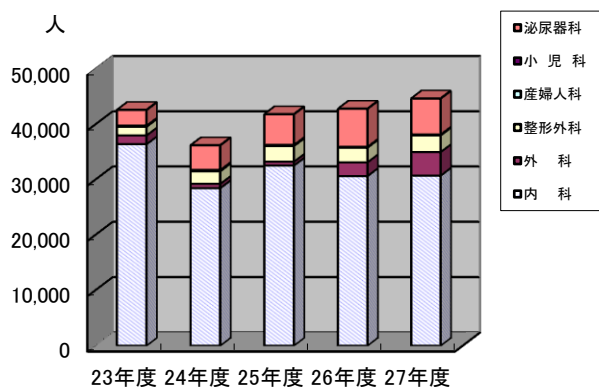
病院の職員数等が適切か否かを判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントとなります。(職員給与費には退職手当負担金、児童手当を含まない。)

○材料費比率(材料費対医業収益比率)  $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$

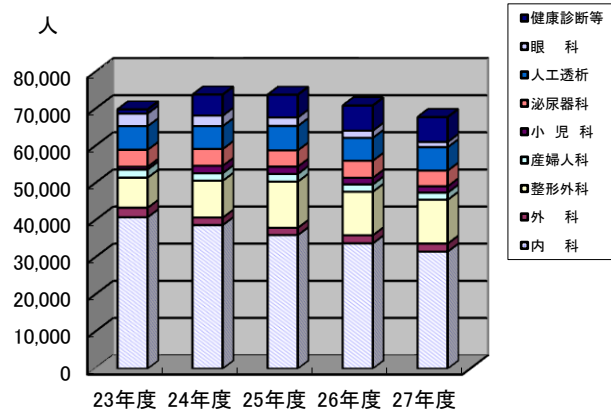
病院において材料費は、職員給与費に次いで大きなウエイトをしめる医業費用。この比率が高い場合には、材料の購入価格(方法)を見直し、材料費の節減を図る必要があります。

## 4 患者数の推移

### 延べ入院患者数の推移



### 延べ外来患者数の推移



### (入院)

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
内科	36,463	28,512	32,595	30,696	30,777
外科	1,597	778	700	2,485	4,269
整形外科	1,571	2,273	2,837	2,658	3,010
産婦人科	160	132	169	113	109
小児科	34	97	28	39	57
泌尿器科	2,832	4,463	5,543	6,879	6,509
合計	42,657	36,255	41,872	42,870	44,731

※当日退院患者含む

### (外来)

区分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
内科	40,823	38,706	35,997	33,777	31,555
外科	2,541	2,016	1,962	2,183	2,169
整形外科	8,108	9,923	12,443	11,736	11,803
産婦人科	2,194	2,041	2,086	1,961	1,917
小児科	761	1,984	1,958	1,775	1,691
泌尿器科	4,550	4,517	4,387	4,614	4,248
人工透析	6,367	6,174	6,553	6,160	6,301
眼科	3,393	2,840	2,303	1,919	1,408
皮膚科	1,064	1,397	1,678	1,584	2,180
健康診断等	1,103	5,632	6,093	6,761	6,690
合計	70,904	75,230	75,460	72,470	69,962